

阿波

鳴門の
渦

六十余年の
名所図

16th JSMD プログラム

会長講演

特別講演 1～2

教育講演 1～4

シンポジウム 1～9

双極性障害委員会企画シンポジウム

気分障害の治療ガイドライン作成委員会企画シンポジウム

倫理委員会企画シンポジウム

自殺対策委員会企画シンポジウム

多職種連携委員会企画シンポジウム

自殺予防研修会

診療教育委員会企画 第13回うつ病診療講習会

学会奨励賞・下田光造賞 受賞講演

会長講演

7月5日(金) 14:20～15:10

あわぎんホール 第1会場(1Fホール)

PL1 うつ病診断の現状と今後

座長	三村 将	慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室
----	------	--------------------

演者	大森 哲郎	徳島大学大学院医歯薬学研究部精神医学分野
----	-------	----------------------

特別講演 1

7月5日(金) 13:00～14:00

あわぎんホール 第1会場(1Fホール)

ILE1 Modelling, Measuring and Managing Melancholia

同時通訳付

座長	大森 哲郎	徳島大学大学院医歯薬学研究部精神医学分野
----	-------	----------------------

演者	Gordon Parker	School of Psychiatry, University of New South Wales (UNSW), Australia
----	---------------	---

特別講演 2

7月6日(土) 13:20～14:20

あわぎんホール 第1会場(1Fホール)

ILE2 ネガティブケイパビリティ — 答えの出ない事態に耐える力

座長	大森 哲郎	徳島大学大学院医歯薬学研究部精神医学分野
----	-------	----------------------

演者	帚木 蓬生	作家、精神科医
----	-------	---------

教育講演 1

7月5日(金) 15:20～16:20

あわぎんホール 第1会場(1Fホール)

EL1 ICD-11の気分症<障害>と関連症群

座長	加藤 忠史	理化学研究所脳神経科学研究センター精神疾患動態研究チーム
----	-------	------------------------------

演者	神庭 重信	九州大学 名誉教授 / 一般社団法人日本うつ病センター / 栗山会飯田病院
----	-------	---------------------------------------

教育講演 2

7月5日(金) 16:30～17:30

あわぎんホール 第1会場(1Fホール)

EL2 とともに悲嘆を生きるということ —— グリーフケアの文化と歴史

座長	張 賢徳	帝京大学医学部附属溝口病院精神神経科
----	------	--------------------

演者	島蘭 進	上智大学グリーフケア研究所
----	------	---------------

教育講演3

7月5日(金) 16:30～17:30

あわぎんホール 第2会場(4F 大会議室)

EL3 ひきこもりと対話実践

座長	井原 裕	獨協医科大学埼玉医療センターこころの診療科
演者	斎藤 環	筑波大学医学医療系社会精神保健学

教育講演4

7月5日(金) 16:30～17:30

あわぎんホール 第3会場(4F 会議室2～4)

EL4 対人関係療法を日常臨床に活かす

座長	端詰 勝敬	東邦大学医学部心身医学講座
演者	近藤 真前	名古屋市立大学大学院医学研究科精神・認知・行動医学分野

シンポジウム1

うつ病の心理的ケアー精神医学、心理学、宗教学の協働を考えるー

7月5日(金) 9:20～11:20

あわぎんホール 第1会場(1F ホール)

オーガナイザー	張 賢徳	帝京大学医学部附属溝口病院精神神経科
---------	------	--------------------

【趣旨・狙い】

うつ病は精神医学的な病気であり、医学的な治療を要する。しかし、薬物療法に代表されるような身体的治療だけで完治に至るケースは少ないのが実情であり、心理的なケアも重要である。この点は主治医である精神科医も十分に認識しており、サイコセラピーを勉強して実践し、必要に応じて臨床心理士とも協働してきた。しかし、患者数の多さや、サイコセラピーへの診療報酬の低さ等のために、日常臨床でサイコセラピーが均てん化されているとは言い難い。臨床現場の実情に即したサイコセラピーの実践が求められる。加えて重要なことは、通常のサイコセラピーではカバーしきれない、例えばスピリチュアルな問題に対するケアをどうすればよいのかという臨床課題である。ここに、宗教が培ってきた英知を活用できるのではないかと考え、本シンポジウムを企画した。うつ病のトータルケアに、精神医学、心理学、宗教学の協働を考えたい。

座長	張 賢徳	帝京大学医学部附属溝口病院精神神経科
----	------	--------------------

- SY1-1 生物心理社会モデルに基づくうつ病の病態メカニズム
山本 哲也 徳島大学大学院社会産業理工学研究部
- SY1-2 うつ病に対する認知行動療法：言葉による治療の効果
中川 敦夫 慶應義塾大学病院臨床研究推進センター
- SY1-3 キリスト教の歴史的諸展開とうつ病ケアへの親和性
伊藤 高章 上智大学大学院実践宗教学研究科死生学専攻
- SY1-4 仏教の視点から見たうつ病ケア
玉置 妙憂 医療財団明善会小岩榎本クリニック / 大慈学苑

シンポジウム2 発達障害の特性をもつ成人の診断と支援

7月5日(金) 9:20 ~ 11:20

あわぎんホール 第2会場(4F 大会議室)

オーガナイザー 秋山 剛 NTT 東日本関東病院精神神経科

【趣旨・狙い】

発達障害の特性が診断基準の閾値下である人が、成人後、就学、就労した後に、適応上の困難を来し、うつや不安などの症状を呈することがある。本シンポジウムでは、「成人精神科患者の閾下発達障害特性を評価することの意義」について、包括的な精神医学的評価に重要な一側面としての発達障害特性評価の意義について、国内外における最近の研究成果を紹介しながら考察し、「発達の偏りについての、大学・職場・診察室での理解と対応」について臨床現場での評価の視点や対応の実際について整理を試み、気分障害・不安障害を併存する対象者の復職支援に取り組んできた現場からは「休職体験を『捉え方の見直し』につなげる」という視点から「仕事を通したりカバリー」をもたらす支援のかたちについて考察を加え、「支援のための連携」について、発達障害の専門家と様々な関係者の連携の可能性について検討する予定である。本シンポジウムが、閾値下発達障害特性を持つ人のよりよい社会適応につながればと考えている。

座長 秋山 剛 NTT 東日本関東病院精神神経科

SY2-1 成人精神科患者の閾下発達障害特性を評価することの意義

神尾 陽子 発達障害専門センター / お茶の水女子大学人間発達教育科学研究所 / 精神・神経医療研究センター精神保健研究所

SY2-2 発達の偏りをもつ人たちへの、大学・職場・診察室での理解と対応

吉田 友子 子どもとおとなの心理学的医学教育研究所 (iPEC) / よこはま発達クリニック

SY2-3 休職を機に「思考-行動システム」のバージョンアップを図る ～自閉スペクトラム特性がある患者への復職支援

村田 俊郎 医療法人財団光明会明石こころのホスピタル

SY2-4 支援のための連携

秋山 剛 NTT 東日本関東病院精神神経科

シンポジウム3 症例から学ぶ気分障害と器質疾患との鑑別

7月5日(金) 9:20 ~ 11:20

あわぎんホール 第4会場(5F 小ホール)

オーガナイザー 三村 将 慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室

【趣旨・狙い】

精神科の一般臨床において、気分障害と認知症ないし器質疾患との鑑別は重要であり、かつしばしば難渋することはよく経験するところである。本シンポジウムでは、うつ病・双極性障害と鑑別が難しかった器質疾患症例、あるいは逆に器質疾患を疑ったがやはり気分障害圏であったと考えられた症例について、自験例を挙げていただき、Q&Aを踏まえて議論していく。抄録の段階ではあえて診断名や明らかにそのcueとなるデータは伏せ、聴衆と一緒に参加型で考えていきたい。

座長 三村 将 慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室

馬場 元 順天堂大学医学部附属順天堂越谷病院メンタルクリニック / 順天堂大学大学院医学研究科・精神行動科学

SY3-1 うつ病との鑑別を必要とした認知症の一例

平野 仁一 慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室

SY3-2 抑うつ症状、身体症状を呈した高齢女性の一例

前嶋 仁 順天堂大学医学部附属順天堂越谷病院 / 順天堂大学医学部精神医学講座

SY3-3 身体不定愁訴、意欲低下ともの忘れを主訴に受診した1例

互 健二 東京慈恵会医科大学精神医学講座 /
量子科学技術研究開発機構放射線医学総合研究所 脳機能イメージング研究部

SY3-4 症例から学ぶ気分障害と器質疾患との鑑別

片桐 建志 杏林大学医学部精神神経科学教室

シンポジウム4 これからのうつ病治療

7月5日(金) 9:20 ~ 11:20

あわぎんホール 第5会場(5F 会議室6)

オーガナイザー

佐野 信也 防衛医科大学校心理学科
戸田 裕之 防衛医科大学校精神科学講座

【趣旨・狙い】

うつ病治療は、エビデンスやガイドラインに則った標準的なものを行うことが重要である。しかしながら、STAR*D研究で、抗うつ薬の3回の切り替えまでの累積寛解率は約67%であったと報告されているように(Rush aJ et al, 2006)、標準的な治療のみでは不十分な治療経過になる症例は少なからず存在する。そのため、本シンポジウムでは、基礎/臨床研究の第一線で活躍する研究者によって、標準的な治療を超えた、うつ病のこれからの治療について討論する場としたい。各々の演者の専門分野に関連があるテーマについて、現在研究段階にあるものから臨床応用が進められているものも含めて、その生物学的メカニズムから現時点での臨床効果の程度についてまで、幅広く、討論する予定である。

座長

戸田 裕之 防衛医科大学校精神科学講座
朴 秀賢 神戸大学大学院医学研究科精神医学分野

SY4-1 幼少期ストレスから考える治療

戸田 裕之 防衛医科大学校精神科学講座

SY4-2 炎症から考える治療

岩田 正明 鳥取大学医学部脳神経医科学講座精神行動医学分野

SY4-3 これからのうつ病治療におけるニューロモデュレーション

嶽北 佳輝 関西医科大学精神神経科学教室

SY4-4 神経細胞新生・神経可塑性に注目したうつ病治療

朴 秀賢 神戸大学大学院医学研究科精神医学分野

シンポジウム5 気分障害の認知機能障害の評価と治療

7月5日(金) 14:20 ~ 16:20

あわぎんホール 第2会場(4F 大会議室)

オーガナイザー 中川 伸 山口大学大学院医学系研究科高次脳機能病態学講座

【趣旨・狙い】

統合失調症や気分障害(うつ病、双極性障害)などの非器質的精神疾患においても、それぞれに認知機能障害が見られ、症状や経過、生活能力、予後に大きな影響を及ぼすことが報告されてきている。気分障害は情動制御が主たる障害領域であるが、本シンポジウムは認知機能に焦点を当てる。認知機能をどのように評価するか、精神疾患横断的にどのように理解するか、揺れ動く気分の状態とどのように関連するのか、治療のターゲットとするべきなのか、現在考えられている薬物療法、非薬物療法(特に認知リハビリテーション、ニューロモデュレーション)はどのようなものであるのかなどを検証し、考察していきたい。

座長 中川 伸 山口大学大学院医学系研究科高次脳機能病態学講座
住吉 太幹 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所児童・予防精神医学研究部

SY5-1 気分障害の認知機能障害の評価と治療
住吉 太幹 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所児童・予防精神医学研究部

SY5-2 気分障害の認知機能障害に対して、薬物療法は有用なのか？
加藤 正樹 関西医科大学精神神経科学講座

SY5-3 気分障害における認知機能改善療法の効果
豊巻 敦人 北海道大学大学院医学研究院神経病態学分野精神医学教室

SY5-4 認知機能障害へのニューロモデュレーション：反復経頭蓋磁気刺激(rTMS)
鬼頭 伸輔 東京慈恵会医科大学精神医学講座

シンポジウム6 反復経頭蓋磁気刺激療法の導入と展開

7月6日(土) 9:15 ~ 11:15

あわぎんホール 第2会場(4F 大会議室)

オーガナイザー 鬼頭 伸輔 東京慈恵会医科大学精神医学講座

【趣旨・狙い】

わが国でも、うつ病の新規治療法として、反復経頭蓋磁気刺激(rTMS)が導入された。その適応は、抗うつ薬による薬物療法が奏功しない中等症以上の成人のうつ病患者である。また、第2世代の深部経頭蓋磁気刺激(dTMS)も、近く上市されると聞く。このように、うつ病の新たな治療選択肢が広がる一方、臨床研究を除けば、実臨床における使用経験は少なく、これからその有用性が評価されていくものと考えられる。本シンポジウムでは、現在までに蓄積されたEBMからrTMS療法の有効性と有用性について論じ、つぎに、すでに確立した治療法である電気けいれん療法(ECT)とrTMS療法の抗うつ療法としての位置づけについて提示し、議論を深める。また、rTMS療法を導入するにあたって、診療や研究に関する実践的な立場から、その取り組みを報告してもらう。さいごに、rTMS療法の現況の課題と新規治療法としての可能性、展開について纏める。

座長 三村 将 慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室
鬼頭 伸輔 東京慈恵会医科大学精神医学講座

SY6-1 EBMから見たrTMS療法の有効性と有用性
野田 賀大 慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室

SY6-2 うつ病診療における反復経頭蓋磁気刺激(rTMS)療法の位置づけ：電気けいれん療法との対比からの検討
高橋 隼 和歌山県立医科大学医学部神経精神医学教室

SY6-3 反復経頭蓋磁気刺激療法 (rTMS) の大学導入への取り組みと安静時ネットワークの電気生理学的変化から見る臨床の効果

池田 俊一郎 関西医科大学精神神経科

SY6-4 rTMS療法の課題と展開

鬼頭 伸輔 東京慈恵会医科大学精神医学講座

シンポジウム7 抗うつ薬の臨床試験のあるべき姿

7月6日(土) 9:15 ~ 11:15

あわぎんホール 第3会場 (4F 会議室2 ~ 4)

オーガナイザー 渡邊 衡一郎 杏林大学医学部精神神経科学教室

【趣旨・狙い】

国内外で抗うつ薬の臨床試験がなかなか上手く行かない状況が続いている。その背景としてプラセボ反応の高さや評価が評価尺度に依拠している点など特に精神科領域における試験の難しさがあると思われる。本シンポジウムでは抗うつ薬の臨床試験における諸問題を概説し、国内外における工夫、そして今後臨床試験のあるべき姿について議論していきたい。

座長

渡邊 衡一郎 杏林大学医学部精神神経科学教室
渡部 芳徳 医療法人社団慈泉会市ヶ谷ひもろぎクリニック /
医療法人社団慈泉会南湖こころのクリニック /
医療法人社団慈泉会ホヅミひもろぎクリニック

SY7-1 抗うつ薬の臨床試験における諸問題

渡邊 衡一郎 杏林大学医学部精神神経科学教室

**SY7-2 抗うつ薬の臨床試験の難しさと工夫、そして今後のあるべき姿
～製薬企業の視点から～**

小居 秀紀 国立精神・神経医療研究センタートランスレーショナル・メディカルセンター
情報管理・解析部

SY7-3 海外における臨床試験を成功させるための工夫

中川 敦夫 慶應義塾大学病院臨床研究推進センター

SY7-4 治験担当医から見る臨床試験への提言

渡部 芳徳 医療法人社団慈泉会市ヶ谷ひもろぎクリニック /
医療法人社団慈泉会南湖こころのクリニック /
医療法人社団慈泉会ホヅミひもろぎクリニック

シンポジウム8 栄養と運動と気分障害

7月6日(土) 9:15 ~ 11:15

あわぎんホール 第4会場(5F 小ホール)

オーガナイザー 吉村 玲児 産業医科大学医学部精神医学教室

【趣旨・狙い】

医学の父ヒポクラテスは、人間は血液、粘液、黄胆汁、黒胆汁から出来ており、その4体液のバランスが崩れて病気になると考えた。そしてこのうち黒胆汁が増加することがうつ病の原因であると提唱した。メラニコリー(憂鬱)という言葉はメラノス(黒い)・コノス(胆汁)に由来する。その当時、うつ病の治療法としては、転地療法、食事療法、生活療法などが行われていた。生活習慣とうつ病の合併率は高く、両者にはその病態には共通の因子が関与している可能性がある。また、うつ病に対する非薬物療法として運動や栄養が有効であるとの報告がある。コクランレビューではうつ病に対して運動療法が薬物療法や精神療法と同等の効果が期待できると結論づけている。しかし、現状ではどのような程度やタイプのうつ病にどのような運動をどの程度行えばよいかは不明である。栄養とうつ病との関係についても十分に強固な結論は出ていない。本シンポジウムでは栄養・運動が気分障害に及ぼす影響について、うつ病の病態仮説に基づき考察したい。さらに、最近注目を集めている腸内細菌とうつ病との関係についても言及したい。

座長 吉村 玲児 産業医科大学医学部精神医学教室
功刀 浩 国立精神・神経医療研究センター神経研究所疾病研究第三部

SY8-1 栄養と気分障害
功刀 浩 国立精神・神経医療研究センター神経研究所疾病研究第三部

SY8-2 運動とシナプス可塑性
吉村 玲児 産業医科大学医学部精神医学教室

SY8-3 運動と気分障害
池ノ内 篤子 産業医科大学医学部精神医学教室

SY8-4 腸内環境と気分障害
相澤 恵美子 国立精神・神経医療研究センター神経研究所疾病研究第三部 /
名古屋経済大学人間生活科学部管理栄養学科

シンポジウム9 みんなで診よう、こどものうつ病

7月6日(土) 14:30 ~ 16:30

あわぎんホール 第2会場(4F 大会議室)

オーガナイザー 伊賀 淳一 愛媛大学大学院医学系研究科精神神経科学講座

【趣旨・狙い】

こどものうつ病を専門とする児童精神科医は、まだまだ不足している。児童精神科医が少ない地域では、診察を受けるために何週間も待機する場合もある。こどものうつ病を専門医に丸投げにせず、一般の精神科医がある程度対応できれば、うつ病に苦しむ子どもとその家族にとっては大きな助けになる。そこで本シンポジウムでは、地域で活躍する新進気鋭の児童精神科医4名から、一般の精神科医がこどものうつ病を診るための基本的な知識を提供していただくとともに、オール精神科医でこどものうつ病に対峙するにはどうすべきか議論する予定である。

座長 伊賀 淳一 愛媛大学大学院医学系研究科精神神経科学講座
堀内 史枝 愛媛大学医学部附属病院子どものこころセンター・精神科

SY9-1 子どもの「うつ病」と「睡眠障害」
堀内 史枝 愛媛大学医学部附属病院子どものこころセンター・精神科

SY9-2 発達障害とうつ
中土井 芳弘 四国こどもとおとなの医療センター

SY9-3 こどものうつ病と薬物療法

宇佐美 政英 国立国際医療研究センター国府台病院児童精神科

SY9-4 子どものうつ病と精神療法

鈴木 太 福井大学こどものこころの発達研究センター

双極性障害委員会企画シンポジウム

異種性を念頭に置いた双極性障害の診立てと治療戦略を考える

7月5日(金) 9:20 ~ 11:20

あわぎんホール 第3会場(4F 会議室2~4)

オーガナイザー

白川 治

近畿大学医学部精神神経科学教室

【趣旨・狙い】

双極性障害は、その薬物反応性をとってみてもリチウム反応性かどうかをはじめ一様でないことに加え、その予後も社会で重要な役割を果たしつつ活躍できるレベルから日常生活にすら支障をきたすレベルまで多様である。DSM-5において、双極性障害を気分障害の下位分類から独立させた背景には、反復性うつ病の近縁から統合失調症の近縁に至る双極性障害の異種性を念頭に置いたからにちがいない。本シンポジウムでは、双極性障害の異種性を、1) 認知機能障害、2) 神経画像学的知見、3) 分子遺伝学的知見、4) 薬物反応性から論じていただき、双極性障害の異種性についてそれぞれの知見をインテグレートしつつ、双極性障害の新たな診療ストラテジー構築に向けた足がかりとしたい。

座長

上野 修一

愛媛大学大学院医学系研究科精神神経科学教室

白川 治

近畿大学医学部精神神経科学教室

BS-1 認知機能障害からみた双極性障害の異種性

住吉 太幹

国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所児童・予防精神医学研究部

BS-2 ニューロイメージングからみた気分障害の異種性

岡本 泰昌

広島大学大学院医系科学研究科精神神経医科学

BS-3 分子遺伝学からみた双極性障害の異種性

金沢 徹文

大阪医科大学神経精神医学教室 / フローリー研究所

BS-4 薬物反応性からみた双極性障害の不均一性(複雑性)

田中 輝明

KKR札幌医療センター精神科

気分障害の治療ガイドライン作成委員会企画シンポジウム

うつ病治療ガイドラインアップデート

7月5日(金) 9:20 ~ 11:20

あわぎんホール 第6会場(3F 展示室6~8)

オーガナイザー 渡邊 衡一郎 杏林大学医学部精神神経科学教室

【趣旨・狙い】

日本うつ病学会より2012年にうつ病治療ガイドラインが、2016年に児童思春期、睡眠障害を加えたver.2が発表された。

その後、日本医療研究開発機構(AMED)の支援を受け、ガイドラインのさらなるアップデートに向けて作業を進めて来た。

その結果、2018年11月にまず作業療法士向けのガイドラインを、また2019年4月現在、看護師向け、そして高齢者のうつ病ガイドラインも発表準備中である。本シンポジウムではこれまでの経緯、そして各ガイドライン開発の流れやポイントについて紹介する。

さらに、今後うつ病ガイドラインの進む方向性についても触れたい。

座長 渡邊 衡一郎 杏林大学医学部精神神経科学教室
杉山 暢宏 信州大学医学部保健学科実践作業療法学専攻

GS-1 日本うつ病学会大うつ病ガイドライン新しい活動の紹介

渡邊 衡一郎 杏林大学医学部精神神経科学教室

GS-2 うつ病治療ガイドライン～作業療法士版の紹介

田中 佐千恵 信州大学医学部保健学科作業療法学専攻

GS-3 「うつ病看護ガイドライン」の作成と課題

野末 聖香 慶應義塾大学看護医療学部

GS-4 高齢者のうつ病治療ガイドラインの紹介

伊賀 淳一 愛媛大学大学院医学系研究科精神神経科学講座

GS-5 当事者・家族の参加を含めたうつ病治療ガイドラインの今後の方向性について

坪井 貴嗣 杏林大学医学部精神神経科学教室

倫理委員会企画シンポジウム 「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針・ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」への対応

7月5日(金) 14:20 ~ 16:20

あわぎんホール 第3会場(4F 会議室2~4)

オーガナイザー 秋山 剛 NTT 東日本関東病院精神神経科

【趣旨・狙い】

「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針・ヒトゲノム」「遺伝子解析研究に関する倫理指針」が施行されているが、これらの指針への対応に苦慮している施設が多いと思われる。今回のシンポジウムでは、臨床研究を活発に行っている4つの施設から、倫理指針への対応の現況と、各施設行っている工夫について発表していただく予定である。臨床研究を施行する際に、どのように倫理指針の要請をクリアすればよいか悩んでいる施設の方々には、是非参加していただければと考える。

座長 秋山 剛 NTT 東日本関東病院精神神経科
寺尾 岳 大分大学医学部精神神経医学講座

ES-1 慶應義塾大学病院における倫理指針への対応：教育研修活動

中川 敦夫 慶應義塾大学病院臨床研究推進センター

ES-2 名古屋大学における対応

小笠原 一能 名古屋大学大学院医学系研究科精神医療学寄附講座

ES-3 国立精神・神経医療研究センターにおける対応

清水 玲子 国立精神・神経医療研究センタートランスレーショナル・メディカルセンター
臨床研究支援部

ES-4 肥前精神医療センターでの臨床研究法に関する対応

上野 雄文 肥前精神医療センター臨床研究部

自殺対策委員会企画シンポジウム 周産期のメンタルヘルスと自殺予防

7月5日(金) 14:20 ~ 16:20

あわぎんホール 第4会場 (5F 小ホール)

オーガナイザー 張 賢徳 帝京大学医学部附属溝口病院精神神経科

【趣旨・狙い】

産後うつ病の存在が知られるようになって久しいが、最近、産後うつ病と自殺の関係があらためて注目され、2017年に改定された国の自殺総合対策大綱では、妊産婦への支援が重点課題の1つに挙げられた。また、2018年4月から開始され、2019年1月から凍結されたいわゆる妊婦加算も、その開始理由の1つに、精神疾患を有する妊婦に対するケアの重要性が挙げられていた。妊婦加算については、その運用の仕方に疑問が呈されたわけだが、メンタルヘルスに目を向けることの重要性が否定されたわけではない。周産期のメンタルヘルスは重要であり、それへの関心は高まっている。本シンポジウムでは、その背景を解き明かし、臨床現場の問題点を整理し、日常臨床でできることを多職種で考えていきたい。

座長 張 賢徳 帝京大学医学部附属溝口病院精神神経科
太刀川 弘和 筑波大学医学医療系災害・地域精神医学

SS-1 東京都23区における妊産婦の自殺の実態

引地 和歌子 東京都監察医務院

SS-2 妊産婦自殺の現状と日本産婦人科医会の取り組み

相良 洋子 さがらレディスクリニック / 日本産婦人科医会

SS-3 「周産期のメンタルヘルスと自殺予防」～助産師の立場から～

新井 陽子 北里大学看護学部

SS-4 周産期メンタルヘルスの知見を臨床に活かす：妥当性の承認から治療導入へ

尾崎 紀夫 名古屋大学大学院医学系研究科精神医学・親と子どもの心療学分野

多職種連携委員会企画シンポジウム 支援者の抑うつとバーンアウト

7月6日(土) 14:30～16:30

あわぎんホール 第3会場(4F 会議室2～4)

オーガナイザー

向笠 章子

広島国際大学大学院心理科学研究科実践臨床心理学専攻

【趣旨・狙い】

1995年に阪神・淡路大震災・2011年の東日本大震災等の大規模な地震の被災者に対する支援活動が初期から中・長期的に展開され、近年では2018年西日本豪雨でも同様の被災者に対する支援活動が行われてきています。この災害後の支援活動ではその規模にかかわらずに様々な職種の人間が被災者支援にかかわっており、今では中・長期的な支援を踏まえた活動が認知されています。一方で被災・被害者に対して支援を行う支援者に対するケアは、近年になって注目されてきたのが現状です。今回の企画はこの「支援者に対する支援をどうしていくか」をテーマにそれぞれの領域から支援者への支援の実際を含めた内容から検討していこうと考えています。

座長

沼 初枝

立正大学心理学部

山口 律子

日立キャピタル損害保険株式会社

- CS-1 **支援者の抑うつとバーンアウト：フロイデンバーガー（1974）から半世紀、支援者／治療者はずっと疲弊し、これからも状況は変わらないのだろうか。**
佐野 信也 防衛医科大学校心理学科
- CS-2 **災害派遣や国際平和協力活動に従事する自衛官のメンタルヘルスから支援者支援を考える**
谷知 正章 防衛医科大学校精神科学講座 / 防衛医科大学校学生部
- CS-3 **災害支援にあたる保健師のメンタルヘルス**
多田 和代 徳島県南部総合県民局保健福祉環境部（阿南）
- CS-4 **支援者のレジリエンスを育む試み**
栗原 幸江 がん・感染症センター都立駒込病院緩和ケア科 / 認定NPO法人マギーズ東京
- CS-5 **共感疲労と支援者のメンタルヘルス**
武井 麻子 首都大学東京健康福祉学部看護学科 / オフィス・アサコ

自殺予防研修会

自殺が生じたあとのケア：患者や同僚を失った医療者・勤労者のケア

7月6日(土) 14:30～17:00

あわぎんホール 第4会場(5F 小ホール)

オーガナイザー 河西 千秋 札幌医科大学医学部神経精神医学講座

【趣旨・狙い】

自殺の予防、そして自殺の後に遺された人へのケアは、精神科、心理臨床、ないしは対人支援業務の中で重要な領域です。また、不意に生じた自殺事故等のメンタルヘルス事故後の対応は、職場における業務管理や労務管理、リスク管理上の課題でもあります。本研修会は、自殺事故後に生じるさまざまな課題を提示し、事故に遭遇した人、事故後に遺された人の反応と心理についてケース・スタディなどを通して学びます。そして、課題解決について、複数の観点からその方法論について学習します(事故後のグループを対象にした悲嘆ケアも例示いたします)。

座長 河西 千秋 札幌医科大学医学部神経精神医学講座

講師、ファシリテーター 張 賢徳 帝京大学医学部附属溝口病院精神神経科
大塚 耕太郎 岩手医科大学神経精神科学講座
太刀川 弘和 筑波大学医学医療系災害・地域精神医学
稗田 里香 東海大学健康科学部
小山 達也 東京女子医科大学看護学部
津山 雄亮 札幌医科大学医学部神経精神医学講座

※本研修会への参加は、事前登録制です。
残席がある場合のみ、当日登録を行います。

定員：40名

受講料：5,000円(テキスト代を含む)

診療教育委員会企画 第13回うつ病診療講習会 うつ病の寛解から完治・社会復帰へ向けてー職場のケース

7月5日(金) 14:20～18:20

あわぎんホール 第5会場(5F 会議室6)

オーガナイザー 川崎 弘詔 福岡大学医学部精神医学教室

【趣旨・狙い】

うつ病診療の実際を広く医療職に理解していただく事を目的にしている。特に職場復帰のケースを扱うので、産業医を対象に、単位の取得が可能にしている。特に、「うつ病の寛解から、完治へ」という点を目標にしているため、コメディカルの参加も期待している。また、精神科医も対象にし、復職に関する知識を取得していただく。

DS-1 うつ病診療での40年間の変化と職場のメンタルヘルス

五十嵐 良雄 医療法人社団雄仁会

DS-2 薬物療法の留意点

野村 総一郎 一般社団法人日本うつ病センター

DS-3 うつ病患者の対応の実際

信田 広晶 しのだの森ホスピタル

DS-4 対応の難しい「うつ病」患者

原田 康平 福岡大学医学部精神医学教室

症例解説 信田 広晶 しのだの森ホスピタル

原田 康平 福岡大学医学部精神医学教室

※本講習会への参加は、事前登録制です。

残席がある場合のみ、当日登録を行います。

定員：30名

受講料：12,000円(テキスト・受講修了証・軽食代を含む)

学会奨励賞・下田光造賞 受賞講演

7月5日(金) 16:30 ~ 17:30

あわぎんホール 第4会場(5F 小ホール)

座長

三村 將

慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室

1. 学会奨励賞

医学分野

- P-17 機械学習によるMRIを用いた電気けいれん療法に対する個別の治療反応予測
高宮 彰紘 慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室 / 精神医学・行動科学研究所
- P-36 気分障害のバイオマーカーとしての血清中グリア細胞株由来神経栄養因子(GDNF)に関する多施設共同研究
井手本 啓太 千葉大学大学院医学研究院精神医学
- P-56 精神疾患における認知機能障害と社会活動時間との関連
宇野 洋太 国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 精神疾患病態研究部

医療保健分野

- P-29 個人に最適化されたうつ病再発兆候の早期発見技術の開発
—心理・社会・生物学的データに対する機械学習法の適用—
山本 哲也 徳島大学大学院社会産業理工学研究部

2. 2019年下田光造賞

- KS-1 Optimising first- and second-line treatment strategies for untreated major depressive disorder — the SUN☺D study: a pragmatic, multi-centre, assessor-blinded randomised controlled trial
大うつ病に対する新規抗うつ剤の最適使用戦略を確立するための大規模無作為割り付け比較試験
加藤 正 あらたまこころのクリニック
- KS-2 Circadian Rhythm Sleep-Wake Disorders Predict Shorter Time to Relapse of Mood Episodes in Euthymic Patients With Bipolar Disorder: A Prospective 48-Week Study
概日リズム睡眠・覚醒障害は寛解期双極性障害患者の早期再燃の予測因子となる：48週間の前向き観察研究
高江洲 義和 杏林大学医学部精神神経科学教室